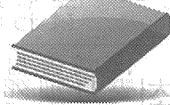


ほっかいど

勧誘・被害の実態を紹介



BOOK  
ほっかいど



大学のカルト対策

櫻井義秀・大畑昇(編著)

オウム真理教による地下鉄サリン事件から20年近くたった今も、キャンパスで大学生らが反社会的なカルト宗教組織に勧誘され入会させられる「カルト被害」は後を絶たない。

本書は、カルト問題に取り組む宗教社会学者や弁護士、大学の学生相談カウンセラーら9人の専門家が、カルトの実態や対策を包括的に論じたものだ。

カルトとは何か、何が問題かの基本に始まり、カルトが正体を隠して行う勧誘の違法性や、在学契約などに基づく大学が学生を守る義務が説き起こされる。

世界基督教統一神霊協会

(統一教会)を相手に札幌で訴訟を闘ってきた弁護士は、「協会による布教や人格改造の方法」を詳細に報告。仏教系カルト入信体験者は、カルトがネット上の交流サイト(SNS)などを使った勧誘に近年移行している実態も紹介している。

豊富な具体例や判例を元にカルトの問題点と被害の実態を明らかにした上で、大学の相談窓口の整備や大学間での情報交換などの対策も示される。「カルト的思考は学問の対極にある」との指摘は説得的で、問題の根深さと関係者の真剣な取り組みがよく分かる。より多くの大学関係者や学生に手にとって欲しい本だ。

北海道大学出版会  
・2520円